これなくして立命館大学学生時代、その後の人生を語れない 立命館大学ワンダーフォーゲル会の創立とその後の歩み S35法卒 鎌田克則

今時の学生には考えられない話と思うのだが、大学入学式の日に、たまたま同じ高校の卒業の新入生二人(大野君、福島君)と出会い、声を掛け、その2~3週間後の1956年(S31年)4月27日、その新入生3人が、朝から校内にワンゲル会員募集の大きな模造紙何枚か張出し、同時に同じ文言を使ったワンゲル会員募集のガリ版刷りのビラ4000枚つくり、3日間、校門前でバラ撒いたのである。

そのびビラに載せた文言が残っている。文頭部分を抜粋すれば、

「みなさん!この度一回生が数人集まって立命ワンダーフォーゲル会という新しいクラブを結成しました。ワンダー-フォーゲルとは渡り鳥の意で、青年男女が簡素な支度で野山を渡り鳥の様に渡り歩き、健康と生命力にあふれた人生の一刻を満喫する世界的な運動です。

私たちはこの素晴らしいクラブを立命にも作り、色々のプランを実行して、 皆さんと共に、この大学生活をより楽しく送りたいと考えています。(後略)」



何故これほど詳しく状況を記せるのかと言うと、実はその後発行された立命ワンダーフォーゲル会の機関誌「漂雲」創刊号に、その経緯が詳しく掲載されており、それにOB、OG7~800名中、300名を擁するOB会の、活発なホームページの巻頭の一つに、創立事情が記録されているからなのだ。

さて、その呼びかけに応じた学生は100名近くであった。 勿論先輩達も居た。

早速次の日曜日には奥比叡登山、ポンポン山、そして奥伊吹等々に出かけるは勿論、そのうちに他大学の学生まで呼びかけて、夏には妙高高原、次の年には北海道まで出掛けたのである。2年目辺りには、会員も200名ぐらいまで増えたか。

一方組織としては、常連と称する永辻君、本所さん、西野君等々10人ばかりのメンバーが中核となり、存心館の地下一階のうどん屋の隣に陣取り、多くの会員が集まり、毎日新たな情報交換と計画の立案、山野彷徨の話に明け暮れたのだ。どれほど楽しかった事か。

今思えば未知のトレイルを求めて、山岳部でもない、ハイキングでもない、 自然と合一する新たなるジャンルを開く思いでありました。 そしてその創立期のメンバーは、その学生時代をワンゲルー色で青春を謳歌し卒業したのだが、その2~3年後、伝統を引き継いだ活気ある後輩たちが、何と誰の援助を受けることなく、自分らで資金を集め、労力、知力を結集して、1962年秋には、何と京都貴船、芹生の奥、雲取山の二の谷に、立派な山小屋を完成させたのだ。彼らは彼らなりにワンゲルを進化させ、新たなる境地を開いたのだ。

しかもその小屋は、その後も完成に関わった森村君(37 年卒)、打越君(37 年卒) らの努力により、長く維持管理され、2010年に正式にOB会が出来てか



らは、山小屋委員会に引き継がれ、毎年春秋には、ワークキャンプと称して年2回、30人近いメンバーが泊まり込みでメンテナンスを行うので、小屋本体は勿論、炊飯棟、本職 OB 宮司により遷座祭をすませた神社、テラス、トイレ、ドラム缶風呂等々、それに最終駐車場から30分の谷道の整備まで、お陰で二の谷全体が素晴らしい自然環境の中にある。







よって清き水で飯を炊き、持ち寄った食料を楽しく加工し、一杯飲みながら、 或いはコーヒーを嗜みながら、一夜を明かし、歓談する楽しさは、他に代え難 い。それが何時でも可能なのだ。特に真夏は市内より10度は低く快適そのもの。

片や現役たちも現在 3~40人程度在籍、OB会の連中と時折交流している。 ワンゲルOB会のホームページの管理は、事務局の努力により、完璧に維持 され活発に更新されている。特に掲示板を通してのOB間の交流、現役時代も 顔負けの呼び掛けや、報告、同年代の集まり等々が日々更新されている。 毎日見るのが楽しみ。「RUWV」で検索して「立命ワンゲルOB会」のホームページを開いてください。現役ならびにOB会の活動がつぶさに見られます。

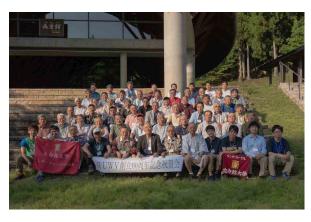


先年も、掲示板で声を掛けあって、 保津峡から琵琶湖まで、鞍馬から 日本海小浜迄、「北山クロストレ イル」と称し、何回かに分けて歩 いた。スキーも毎年蔵王に始まり 志賀高原、磐梯、北海道等々。以 前は何度か海外にも出かけた。

最近エアーボートで川を下るメンバーもいる。私もその一人。 正直、私の歳(82歳)で、皆さんから声が掛けられるのは嬉しい。

OB会も数年おきに総会を開き、全国からOB, OGが集まる。昨年も花背 交流の森で、現役を含め、盛大な創立 60 周年大会を開いた。

先日ワンゲル創立第一期生が南禅寺に集まった。全員 80 歳以上である。そして口々に、学生時代ワンゲルに属したことが、その後の人生をどれほど豊かにしてくれたことか語るのを聞いた。





それに驚く事が有る。10年ほど前、卒業年代順の名簿をアイウエオ順に並べ替えた。すると、何と同じ苗字の、同じ住所のカップルが13~4組同列に並んで出てきたのである。告白すれば、私の家内も、他大学に呼び掛けたワンゲル計画の参加者の一人なのだ。

たまたま入学当初、思い付いたワンゲル創立の呼び掛けが、図らずも、私の 生涯は勿論、同期生やその後の大勢の後輩の人達の人生に、何なりか豊かにし たとの思いは、この上ない嬉しい出来事だ。